

令和3年度第1回 川崎市多摩川プラン推進会議

議事録

1 開催日時：令和3年8月30日（月）午後2時～午後3時30分

2 開催場所：建設緑政局 局会議室

3 出席者：(敬称略)

会長	鈴木 誠	東京農業大学名誉教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
委員	松井 隆一	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	梅原 七重	市民公募
委員	堀 良通	市民公募
委員	櫛原 賢二	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官

4 議事

- (1) 令和2年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告
- (2) 令和元年度東日本台風の多摩川河川敷の災害復旧状況報告及び令和3年度の工事について
- (3) 令和3年度の新型コロナウイルス禍におけるイベント開催状況やBBQ広場の対応について
- (4) 多摩川丸子橋河川敷の新たな利活用に向けた社会実験について
- (5) 次回の多摩川プランの改定に向けた考え方の検討について
- (6) その他

5 傍聴者：なし

6 会議内容

【事務局】 はい。それでは、始めさせていただきます。こちらは、川崎市の多摩川施策推進課です。こちらの音声は皆さんに届いていますか。

【事務局】 それでは、定刻となりましたので、令和3年度第1回川崎市多摩川プラン

推進会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【一同】 よろしく申し上げます。

【事務局】 私は、本日の司会進行を担当します、多摩川施策推進課の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

本日の委員の出席状況ですが、10名中9名の委員にご出席いただいています。従って、川崎市附属機関設置条例第7条第2項に基づき、半数以上の委員のご出席により、本会議が成立していることをご報告します。

続いて、開会に当たり、緑政部長の鈴木より、ごあいさつ申し上げます。

《緑政部長挨拶》

【緑政部長】 ただ今ご紹介に預かりました、緑政部長の鈴木です。

本日はお忙しい中、新多摩川プランの推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。今回の推進会議は、緊急事態宣言中ということもあり、感染拡大防止のため、急きょオンライン会議とさせていただきました。

本日は、本年度の第1回ということで、昨年度の実績報告書と、本年度の主な取り組み内容などについてご報告した後、委員の皆さんと意見交換を行い、プラン推進の参考とさせていただきます。

本年度はコロナの影響もあり、残念ながら中止や縮小となってしまった事業もあります。新しい生活様式を取り入れ、工夫を行いながら、引き続き多摩川の魅力発信に努めていきます。また、河川敷内の整備工事については、令和元年度東日本台風で被災したマラソンコースの整備が完了する他、かわさき多摩川ふれあいロードの、舗装の部分の延伸についても着手する予定です。

今後についても、新型コロナウイルスによる感染拡大の防止を図るとともに、各方面からご協力いただきながら、皆さまと共に、プランの基本理念である、「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」を尊重し、各事業の推進に取り組んでいきたいと考えていますので、ぜひ忌憚（きたん）のないご意見をお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

《委嘱状授与》

【事務局】 続いて、委嘱状の授与です。本日はオンラインの開催ですので、事前に郵送しています。本年度より、委員にご参加いただく、国土交通省関東地方整備局、京浜河川事務所、事業対策官の榎原様です。榎原様、一言申し上げます。

【榎原委員】 皆さん、こんばんは。京浜河川事務所の事業対策官をしている榎原と申します。音声は聞こえますか。

【事務局】 大丈夫です。

【榎原委員】 よろしく申し上げます。私は、2年前まで京浜河川事務所の環境課長であり、2年間は甲府に行き、その後に戻ってきた格好です。ですから、NPO団体のエコミュ

ージアムさんや干潟ネットワークさんとは、かなりお付き合いしてもらっていました。多摩川に関する施策のことなので、引き続き協力できることは積極的に協力していきたいと思っていますので、今後もよろしくお願ひします。簡単ですが、以上です。

【事務局】 ありがとうございます。

本会議については、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただきますとともに、会議録においては、個々の発言者氏名を記載させていただきますので、あらかじめご了承をお願いします。

なお、本日は傍聴の申し出がありませんので、このまま会議を進めます。

それでは、これよりの進行については、鈴木会長、よろしくお願ひします。

【鈴木会長】 皆さんこんにちは。鈴木です。今日も Zoom で会議ですが、ご協力のほどよろしくお願ひします。

まず、議事 1、「令和 2 年度新多摩川プラン『多摩川は今』の報告」について、事務局よりご説明をお願いします。皆さん、お手元に資料は届いていますか。

【事務局】 大丈夫でしょうか。まず、前もってお送りした資料の確認をさせていただきます。資料の 1 として、「多摩川は今」の冊子が 1 部。資料 2-1 として 1 枚、資料 2-2 として 1 枚。資料 3-1 が 1 枚、資料 3-2 が 1 枚、資料 3-3 が 1 枚。資料 4 が 1 枚。以上となっていますが、皆さま、不足なくお持ちでしょうか。

【鈴木会長】 大丈夫です。

《事務局より令和 2 年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。委員の皆さまから、ただ今の令和 2 年度の事業報告書「多摩川は今」で、何かご質問やご意見はありますか。

今回は、写真や図による情報がものすごく多くなったというのが、感想として 1 つあります。しかも、印刷技術がものすごく良くなっているのでしょうか。写真に写り込んだ文字情報が見て取れるというか、非常に鮮明です。

【梅原委員】 レイアウトがきれいですね。前よりもとても見やすいです。

【鈴木会長】 よくなっています。その情報が、今度は QR コードで、その場所に行けば、さらに共有ができるようになったということです。すごいです。

【梅原委員】 ごちゃごちゃしなくていいです。

【鈴木会長】 技術の進歩の仕方は、あっという間に。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【梅原委員】 字が小さくて、見えにくいです。眼鏡を掛けないと見えません。

【鈴木会長】 ありがとうございます。

【目黒委員】 目黒ですけれども、よろしいですか。

【鈴木会長】 どうぞ、目黒さん。

【目黒委員】 川崎市には7区あります。その中で、今回は子どものイベントや防災など、いろいろなイベントがありますが、区の、本当に川辺に近い所の参加者が大体多いのか、少し離れているけれども、宮前区の人参加しているのかどうかを、知っておいたほうがいいと思います。それにより、PRなどによって、もっと参加者が増えると思いますが、何かそういうものは押さえていますか。もしあれば、教えてください。

【鈴木会長】 事務局、いかがですか。

【事務局】 参加者にもアンケートを取っていますので、恐らく住所などは分かると思いますが、そのような集計は、まだしたことはありません。今、委員の方がおっしゃったとおり、そのような情報を整理して、参加者の少ない地域などにもう少しPRしていくと、もっと参加者が増えていくのかとは感じました。ありがとうございます。

【鈴木会長】 ありがとうございます。

【梅原委員】 幸区は全然ありません。幸区、中原区は川に沿っていますが、水辺の利用が、あまりありません。

【鈴木会長】 確かに、多摩川が1つあり、何か線的、ラインとして、われわれは認識していますね。そこまでに到達するというか、面として、多摩川の利用者はどういう行動をして、そのラインとしての多摩川まで来て、ラインとしてある多摩川のポイントなのか、それとも、もう少し広く利用しているのかなど、恐らく次の段階では、そのような人々の利用パターンというのでしょうか。利用のニーズによって、きっとサービスの提供の仕方が違ってくるのでしょうか。

先ほどの目黒さんのご指摘などは、民間の企業や、そういうサービスを提供するようなところでは、多分ごく当たり前の話なのかもしれません。ぜひ、その辺りも意識して、進めていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

【寺尾委員】 寺尾です。

【鈴木会長】 では、寺尾さん、どうぞ。

【寺尾委員】 12ページに、「水辺で乾杯 in 川崎」を有志で開催したという記入があります。今年の川の日は7月7日になりますが、私の認識不足で、ミズベリングと称された、水辺で乾杯の行事はどうなったのか、事務局の方に教えていただけますか。

【鈴木会長】 あるいは、それは議題の3辺りで出てくるようでしたら、そこで。令和3年度のイベントの話ですよ？

【寺尾委員】 分かりました。

【鈴木会長】 よろしいでしょうか。堀さん、どうぞ。

【堀委員】 2ページの②で、水環境の向上ということで、今、等々力に水処理センターを工事中だと思っていますが、ここが完成した暁には、この中に、いわゆる環境啓蒙（けいもう）活動のような説明施設をつくる予定はあるのでしょうか。ぜひつくっていただきたい

という感じはしますが、その辺りのもし何か具体的な計画がありましたら教えてください。

【鈴木会長】 事務局、いかがですか。

【緑政部長】 等々力については、再編整備計画を本年度に策定しているところで、その中でそういうものをつくるかどうかという確認はできていませんが、そのようなお話があったことは、担当部署に伝えていきたいと思っています。

【堀委員】 よろしくお願ひします。

【鈴木会長】 ご質問・ご意見がありましたら、他にいかがでしょうか。小野さん、どうぞ。手が挙がったでしょうか。

【小野委員】 これからの意見は、次年度以降の事業報告に對對する意見として聞いていただければと思います。基本目標の期間は25年だと記憶していますが、大体ゴールに近づいてきている状況ですので、例えば現在の進捗状況のようなものを報告書の中に表現できないのかということをご検討いただければという意見です。

進捗状況があまりにも低いような場合は、対策などを一緒に報告書の中で書くとか、そういう内容も必要だと感じたので、意見としてお伝えしました。

【鈴木会長】 すみません。やはり音声途切れ途切れなので、一番ポイントとなる、次年度以降の達成目標が達成されたかどうかというような図表ですか。

【小野委員】 パーセンテージのようなものや、表現の方法は複数あると思います。

【鈴木会長】 分かりました。各施策に対する達成度を、ビジュアルに表現するというか、分かりやすく表現して、達成されていないところについては改善努力をするべきだというご指摘でよろしいですか。

【小野委員】 そうです。5つの目標に対しての、それぞれの達成度のような。

【鈴木会長】 事務局、今のは分かりましたか。

【事務局】 分かりました。事業によっては、数値や目に見えるような達成度は、なかなかお示しづらい項目もありますが、おっしゃるように、このプランがどこまで進んでいるのか分かりづらいところがありますので、今後については検討します。

【小野委員】 お願いします。

【鈴木会長】 小野さん、ありがとうございます。他はいかがでしょう。大丈夫であれば、次の議事に進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【鈴木会長】 それでは、続いて、令和元年度東日本台風からの災害復旧状況報告と本年度の工事について、事務局から、ご説明をよろしくお願ひします。

《事務局より令和元年度東日本台風の多摩川河川敷の災害復旧状況報告及び令和3年度の工事についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。今のご報告に、何かご質問がありましたら、手を挙げていただけますか。

【梅原委員】 ありません。

【鈴木会長】 ありませんか。よろしいですか。それでは、先に進んでよろしいですか。次の議事は、先ほどの「令和3年度の新型コロナウイルス禍におけるイベント開催状況やバーベキュー広場の対応について」、本年度の話をお願いします。

《事務局より令和3年度の新型コロナウイルス禍におけるイベント開催状況やBBQ広場の対応についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。ご質問・ご意見ですが、先ほど寺尾さんが、本年度事業の8月でしたか。

【寺尾委員】 川の日のみずべリングの事業は、今年は実施されたかどうか、お聞きしようと思います。それから小さい事ですが、資料3-1の水辺の楽校のイベントで、3番目の「だいし」の概要に、「干潟の生きものさがしで加工」の「加工」の字が間違っているのを、1つ訂正いただければと思います。

それから、これは資料3-2ですが、3校の合同干潟観察会のときに、写真としては非常にいいのですが、カニの持ち方。これではカニがかわいそうかと思いました。甲羅をつかんでいる写真があれば、本当は良かったでしょう。また、カニは自切行為をするので、こういう持ち方をすると足を折ってしまいますので、この持ち方はあまり良くないと思いました。よろしくをお願いします。

【鈴木会長】 ありがとうございます。

【事務局】 ご意見をありがとうございます。文字は修正します。カニの持ち方については、ご指摘のとおり、あまりよろしくない持ち方になっていますので、このような写真で使うものについては、もう少し適切なものを選んでいきたいと思います。

【寺尾委員】 よろしくをお願いします。

【事務局】 それからみずべリングについては、本日は直接の担当はいませんが、全国的には、このみずべリングのイベントを行っている主催者は、当然このようなコロナの状況ですので、密集して行うということではなく、今年は1人で乾杯しましょうと呼び掛けています。ですから、直接このように密集してやるイベントは、今年は実施していない状況です。以上です。

【寺尾委員】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 他はいかがでしょう。何かご質問等がありますか。

【事務局】 資料の3-2の右側、水たまキッズ上流体験の文章ですが、2行目の最後のほうです。「川崎市が公募で選定した少額5年生」の「少額」が間違っていましたので、こ

ちらも修正します。申し訳ありません。

【梅原委員】 お金の少額になっています。

【鈴木会長】 ありがとうございます。そういえば、事務局、先ほどのバーベキュー広場は中止しているわけでしょうけれども、元々バーベキュー広場開設に至るいきさつは、皆さんが河原に来てバーベキューをしているという実態があったではありませんか。それは、今も散見されるのですか。それとも、それも今はなくなっているのですか。どのような状況でしょうか。

【事務局】 多摩川緑地のバーベキューの状況については、まず、二子新地の、先ほどご説明したバーベキュー広場については、日常的に警備員がついていますので、入れない状況にはなっていますが、やはり、例えば夜間などにバーベキューなどをしに来る人はおり、そのような中で警備員が注意しているという状況はあります。

また、もしかしたら、このバーベキュー広場が閉場している影響もあるのかもしれませんが、丸子橋や登戸のような所の高架下や、そういうバーベキューができそうな広場というか、空いている所で、やはり土日を中心に、バーベキューをしに来ているような方は見受けられている状況はあります。

【鈴木会長】 ありがとうございます。他はいかがですか。よろしいでしょうか。

そうしますと、次の4番目の議事ですが、「多摩川丸子橋河川敷の新たな利活用に向けた社会実験」の件について、事務局からご説明をお願いします。

《事務局より多摩川丸子橋河川敷の新たな利活用に向けた社会実験についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。ただ今の社会実験延期について、状況報告はいかがでしょう。何かご質問等がありますか。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、とんとんと来て、今日の5番目の「次回の多摩川プラン改定に向けた考え方の検討について」の件について、事務局からご説明をお願いします。

《事務局より次回の多摩川プランの改定に向けた考え方の検討についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。それでは、ただ今の説明に対して、皆さんからご質問、あるいはご意見。今の事務局の改定に関しては、先ほど小野さんがご指摘された内容は、まさしくここに反映されるべきご意見でしょう。

【事務局】 そうですね。

【吉富副会長】 よろしいですか。吉富です。

【吉富副会長】 先ほど小野さんがおっしゃったように、やはり評価が大事だと思いますが、その場合に、こちら側で評価するのももちろんですが、実際にこの「多摩川は今」

を読んでいらっしやるような読者層や、実際に整備した場所を使っている方や、いろいろなイベントに、学習会などに参加した参加者の方などに意見を聞くというような、少し反応を伺ってみるのは大事なのではないかと思います。

この「多摩川は今」の中でも、川崎市の取り組みをととても丁寧に、写真も充実して、分かりやすく伝える方向にせっかくできてきましたので、次のステップとしては、何か実際に読み手にも参加してもらえらるようなことができればと思います。例えば学習会に参加したような人たちが、その後どういう進路を取ったとか仕事に就いたなど、長期的に見れば、いろいろな影響が出てきたり、整備している人がこのように使いやすくなったなどという声も聞けたりするのいいと思いました。評価に絡めてですけども、よろしくお願ひします。

【鈴木会長】 ありがとうございます。松井さん、今の意見についてですか。

【松井委員】 今のことではないですが、新しい多摩川プランを作ることについて。

【鈴木会長】 どうぞ。

【松井委員】 考え方として、この項目に流域と書いてあります。皆さんは、流域ということについて、あまり意識したことはないでしょうか。先ほどの麻生区や宮前区は、多摩川は直接流れていないけれども、流域の1つなのです。私は宮前区を中心に活動しており、住まいも麻生区ですけれども、やはり流域思考ということで、多摩川だけではなく、川に関連して水が流れ込むから、里山というような意識で、里山を守るという会にもかなり参加しています。水沢の森や、とんもり谷戸などです。そういう所でホテルを出そうとか、水をきれいにしようとか、いろいろやっていますけれども、そのようなことでも、もう少し流域に目を見やって、多くに語りかけていかなければいけないと思うのですが、どうでしょうか。

それから広報では、「多摩川は今」という冊子が、前に聞いたら、400部か500部以内を川崎市全域に配りますと。150万の人口がいる街でそういうことでは、ほんのすずめの涙ぐらいにしか、私は思いません。そうすると、こういうやっているイベントなどについても、発表の中で確かにやっているけれども、実際に150万の市民が、もっと多摩川に関心を向けて参加してくることについては、何十倍、何百倍ということになればおかしいと思います。そういう広報の在り方などが、あまりできていないような気がするのです。

【事務局】 流域のお話ですが、今、この書いてある多摩川河川敷の周辺だけだよというところですが、確かに流域と考えると、もっと広範囲になるでしょう。私も、昨年度まで緑地保全の事業をしており、その辺でも、やはり流域の考え方はあり、山で治水された水が多摩川に流れてくるなどという辺りを勉強させていただきながら、今後も、流域も含めた多摩川プランを考えていきたいと思っています。

【松井委員】 そうですね。

【事務局】 ただ、500部という形で少ないというお話ですが、正直に予算との関係もありますけれども、予算がなければならぬに、もう少し工夫した広報の仕方もあると思

いますので、1人でも多くの市民の方々の目につくような形を考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

【松井委員】 最終的に多摩川プランが中心になると思いますが、やはり各区でやる施策がいろいろあります。それから、水と緑に関わった中での作業は、無限にというか、結構あるのです。これに載っていないようなことですが、我々が身近に感じて、素晴らしい活動がたくさんあるので、そういうことを上手に広報していくことが大事だと思います。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 今の松井さんのは本当に大事な話なので、「多摩川は今」の、まずは開いて、1枚目の目次には、多摩川プランとして扱う多摩川の川筋しかないが、実際には、この右下の多摩川の位置図。あるいは、この片側だけではなく、両側に広がっているという川の持つ意味が、もう少し、ただ単独で水が流れている場所ではないのだということ。自然の摂理の中の一部であり、相対として理解するのだということ、何か伝えられるような工夫をしていきたいですね。

今、たまたま朝の連続テレビ小説で、山と海が密接につながっていると、SDGsなどの考え方で、だんだんそのような啓発ができてきているから、こういう多摩川プランの中でも、そういうことを伝えられるような意識を持つことも大切なことだと思います。

【松井委員】 もう一ついいですか。

【鈴木会長】 はい。

【松井委員】 もう一つ気が付くが、歴史ということで、われわれは、多摩川のことや水と緑のことを作業の中でいろいろやっていくと、やはり歴史、地名、暮らしぶり、風土などというものがすごく作用しているのです。そういうものが意外と取り上げられていないので、もう少しそういうものも取り上げていきたいと思っています。いかがでしょうか。

【鈴木会長】 今日は、事務局が次回に向けてたたき台が作りやすくなるように、皆さんからいろいろなご意見を頂いたほうがいいと思います。

【松井委員】 そうです。私はそういう意見を持っています。

【鈴木会長】 そのようなことで、ありがとうございます。堀さん、先ほど手が挙がっていました。どうぞ。

【堀委員】 今の松井さんのご意見に、全面的に賛成です。確か私は前に、多摩川の視察のときに、流域をもっときちんと捉えて……。例えば生田緑地との関係や、あるいは二ヶ領用水のことなどは、川崎市にとっての多摩川流域に非常に重要な部分なので、きちんとその部分が、全く取り上げられていないのが、少し寂しい感じがします。

この「多摩川は今」を辛口的に見ますと、子どものためと、バーベキューと、ウォーキング・サイクリングをしている人だけには参考になるけれども、他の人には、見ても少しも面白くありません。

【梅原委員】 イエス。

【堀委員】 辛口的な言い方をしますと、私はそういう印象を受けます。改定版になっていくと、この間の災害の復旧工事はどんどん終わってきますから、それがどんどんページから抜け落ちてくるので、それ以外の部分で、大多数の大人たち、一般の市民の人たちが関心を持っていけるような多摩川プラン、あるいはこういう貴重な冊子を、きちんとどのように作っていけるかということが、非常に大事になってくるのではないかと思います。

それに関連して、皆さんはご存じだと思いますが、鶴見川の流域のことに関して、慶應大学の名誉教授の岸由二さんという方が書かれた、この本です。うまくいきません。『生きのびるための流域思考』は、鶴見川は基本的に横浜市だけに流れている川で、多摩川とだいぶ水質が違い、距離も短いのですが、そこのところで、市民活動と、この鶴見川の流域を一体どのように捉えてきたのかということ、きちんと NPO の報告を中心に書かれている本です。非常にお金をかけて作っているわけですから、そういうことも参考にされて、この次の冊子は、それをぜひやっていただきたいと思います。

もう一点は、先ほど上流のほうの区は多摩川に直接関係ないとお話ししましたが、私たちが一番身近に行くのは、やはり区役所や、あるいは出張所なので、区単位で、どういうところが多摩川と関わり合いを持っているのでしょうか。あるいは流域。生田緑地や、いろいろな部分があるわけですから、そのようなところを入れていくと、もう少し市民の人たちが親しみを持てるようなパンフになるのではないかと思います。

ここで、それぞれ子どもに向けたとか、いろいろな活動をしている人たちには、自分たちの活動報告が載っていて非常にいい冊子だと思いますけれども、それ以外の人たちにとっては少しも面白くない冊子だと、僕は思います。

【梅原委員】 思います。

【堀委員】 少し辛口で申し訳ありませんが、以上です。終わります。

【鈴木会長】 ありがとうございます。今のご意見も貴重だと思います。梅原さんが賛同者として手を挙げています。梅原さん、何かコメントはありますか。

【梅原委員】 この冊子自体は、とてもよくできていて、すごく読みやすくなって良かったと思いますけれども、私たちにあまり興味のないことがたくさん載っており、もっといろいろな人が興味を持つような話題が少ないですね。よくできてはいますが、あまり興味がない話題が多いです。もう少し広範囲に、もっと全般的に川と私たち人間の関係のような、そういう考えさせられるような内容があるといいと思います。

【鈴木会長】 ありがとうございます。事務局、ここで少し……。今のご意見の中で、「多摩川は今」で掲載されている内容と、それから多摩川プランの実施事業では、今は 100、実際には 98 があり、そのうちの 1 割程度でしょうか。一部分だけしか、ここでは紹介していないということでしょう。

例えば今のような実施事業の取り上げ方を変えると、堀さん、あるいは梅原さんがご指摘になったようなことになるのでしょうか。あるいは、実施事業自体にそれが少し欠落し

ていることがあるのかという観点から、何か……。プランの改定に関わることなので、現時点で結構ですが、今の話、僕が話したことはお分かりになりますか。

【事務局】 この「多摩川は今」に関しては、実施事業の報告というところで、昨年度の成果で、やはり目につく、分かりやすいような工事や環境教育の辺りに、フォーカスを当ててしまっているところがあります。確かに100の事業があり、いろいろな観点から少しずつ拾っていったほうが、いろいろな方が読んで飽きないような冊子になるのかと感じました。改定については、今までにもさまざまなご意見を頂きましたので、また私も勉強しながら、少し考えていきたいと思っています。以上です。

【鈴木会長】 ありがとうございます。今、例えばですが、「多摩川は今」の14ページを見ていただくと、先ほどの少し広域的な範囲で考えてみるということの中で、3番目などは、「水と緑のネットワーク」という言葉で記載されています。「生産緑地地区の指定等による農地保全の推進」、「緑化推進重点地区などをはじめとした、さまざまな緑地保全施策の推進」ということまで、実は多摩川プランの事業の中に書き込んであるのです。

実際には、この3番の水と緑のネットワークなどは、環境審議会の緑と公園部会で報告されるようなことだと思いますが、その多摩川プランの実施状況を、どう推進課として捉えていくのでしょうか。それから、何を重点的にやっていけば全体が良くなるのか、というようなことも実は考えなければいけません。次の改定に向けた課題をさまざまに出していき、ベター、ベストな道筋を考えていくことは大事だと思うので、皆さんから、いろいろとご意見をお願いします。他はいかがでしょうか。寺尾さん、どうぞ。

【寺尾委員】 寺尾です。松井さんの意見に、私ももろ手を挙げて賛成します。流域人口などという言い方は非常に抽象的だと思いますけれども、多摩川は非常に流域人口の多い所ですので、その歴史や背景がもっと載っていればと思います。

川崎市民は、多摩川の水は、工業用には使っていますが、1滴も飲んでいないはずでしょう。そういうことを、小中学生はなかなか理解をしていないのではないかと思います。

それから事務局に質問ですが、新聞報道によると、「おさかなポスト」をやっていた山崎さんが、5月に亡くなられたとお聞きしました。同じ多摩川に関係する者として、心からお悔やみ申し上げたいと思います。まさしくこれがそうだと思いますが、事業ナンバーの57番に、「さかなの家の廃止に伴い事業中止」となっていますけれども、新聞報道によると、山崎さんの後は娘さんが跡を継ぐというお話もあったのではないかと思います。事務局、その辺りの状況はいかがでしょうか。よろしくをお願いします。

【事務局】 さかなの家については、元々漁協さんが、放流するための稚魚を育てる施設として使っていました。事業中止になっているのは、結局ここで稚魚を育てる必要がなくなったこともあり、漁協さんからの申し出があり、このさかなの家は廃止しています。

そのさかなの家を運営しているときに、山崎さんが、一部おさかなポストなどを始められたのですが、元々のさかなの家の目的が先ほど申し上げたところでしたので、その施設

の目的がなくなったこともあり、廃止したという状況です。

【寺尾委員】 分かりました。ありがとうございます。

【鈴木会長】 他はいかがでしょうか。他に何かご意見がなければ、事務局で先ほど、今回のこの会議にたたき台のような、今の改定の進め方が提示されるというお話でしたが、提示されて、それで来年の委員会で、大体次の改定プランです、というようなことを決めてしまうのですか。

【事務局】 そこまでは行かなくて、今は10年ごとの改定ですけれども、時代の背景、社会情勢が変わっているんで、その考え方として、10年が長いのか、短いのか、または5年にするとか、それとも改定自体は10年ですけれども、100の実施事業の修正を行っていくのかなど、その辺りのやり方を、まずお示ししたいと思っています。

【鈴木会長】 分かりました。それにしても、結局、事業の進捗（しんちよく）状況などは、当然取りまとめなくてはいけないわけでしょう。

【事務局】 そうです。

【鈴木会長】 最初の小野さんのご指摘でしょう。ありがとうございます。

そういうことで、次回には、多摩川プラン全体像をもう一回見直してみようというように話が出てくるということでご承知おきください。他にはいかがでしょうか。なければ…。

【小野委員】 すみません。

【鈴木会長】 小野さん、どうぞ。

【小野委員】 私も皆さま方の意見に賛成で、その中で、例えば二ヶ領用水であれば、そのようなところで、市民の方の日々の暮らしにつながる多摩川からの恩恵のようなものが、もう少し具体的に伝わるような内容が盛り込まれるといいかと、皆さまの意見を聞いて感じました。以上です。

【鈴木会長】 ありがとうございます。今度は聞き取れました。

事務局、多摩川プランの微修正に向けたようなご意見と、それから、この「多摩川は今」という広報誌でしょうか。多摩川プラン自体の、市民に向けての周知の仕方というのでしょうか。市民にとっての多摩川の在り方を周知していく方法でしょうか。そのようなことへの工夫と、2つぐらいご意見があると思っています。

この冊子の内容。それから、冊子の内容になるようなことの広報の仕方。それを大本に詰めていけば、川崎市民にとっての、多摩川は一体何かということなのだろうと思いますけれども、プランに影響を及ぼすご意見と、それから広報というか、多摩川とは市民にとって何かという在り方の提示の仕方。こここのところも、少し整理していただけるとありがたいと思っています。よろしく願います。他はいかがでしょうか。

【目黒委員】 目黒ですけれども、よろしいでしょうか。

【鈴木会長】 目黒さん、どうぞ。

【目黒委員】 皆さんのいろいろとお考えはあると思っており、1ページで見ると、基本

目標という中でⅠからⅤまであり、この会議に参加されている方は、どうしてもⅤを強く思われているのかと思っています。

今、新多摩川プランについてというⅠからⅤまでで、今一番皆さんが、どこに、本当に関心を持っているかというところ、災害がここは多いので、やはりどうしてもⅡ番が来るでしょう。時代でいろいろ変わってくると思いますが、やはり昔から多摩川を知られている方になると、どうしてもⅤ番が強くなるのは当然かとは思いますが、今、どこを皆さんが求めているかというところで、引き続きⅤ番は確実にやっていかなければいけないことでしょうし、Ⅱ番などは、早く対応しなければいけないことでしょうし、Ⅲ番、Ⅳ番は、子どもさんがというのはずっと続くことですから、やはり継続的に考えていかなければいけないだろうと思います。

ある程度の10カ年の目標の中でも、やはり基準をつくっていかないと、いろいろ経験されている皆さんでいくと、どうしてもⅤ番が強くなると思います。ここにお子さんをお持ちの方が、例えば公募でいられたりすると、やはり子どもが使うところが、という観点になると思います。そこは行政の方も、どうしても全体を通した形で伝えなければいけないというところがあるから、そうになってしまうのではないかと私は思っています。

私なども、今、どちらかというところ、多摩川寄りにはいますので、Ⅱ番が気になります。Ⅴ番で流域という形になると、災害の面での流域というところも、この間の台風の後の局地的な雨でも、やはり流域の水位が上がるなど、いろいろしていました。そういうこともあるので、ずっと継続するものもあるでしょうけれども、時代、時代にあったところを、やはり強弱をつけてやっていかないと、なかなか興味を持っていただけないのかと思います。意見のようなものです。

【鈴木会長】 ありがとうございます。考えてみると、「多摩川は今」という冊子の名前は、まさしく今、目黒さんがご指摘になったように、来年ですと5年です。本年度一番話題になったところは、もし何かあるのであれば、本当は、それは特記事項として最初に入れてしまおうといいたいまいしょうか……。毎年同じような報告書なのか、特殊になっている部分なのかということをはっきりしないと、毎年、前年のフォーマットでやっていくと、ずっと変わりのないものになってしまいます。

でも、その時代のトピックとして、「今回はここを強調しています」と言っておけば、「他にもあるのだけれども」という言い方ができるでしょう。何かそのようなやり方も考えなければいけないのでしょうか。ご指摘のとおり、10年の計画ですが、新多摩川プランの全体像をもう一度見直すという事務局のスタンスに、そういう意味では期待するところです。

【目黒委員】 何かお願いばかりで申し訳ありません。

【鈴木会長】 いいえ。

【目黒委員】 どうしても、民間もそうですが、限られた予算で、どこを中心にとすると、やはり突発的なところは当然出てくると思います。その中でも、継続してやっていか

なければいけないところは地道にだと思えます。そうしないと、興味を持っていただける範囲がなかなか広がらないのではないかと思い、発言しました。

【鈴木会長】 ありがとうございます。事務局、今日は貴重なご意見をいろいろと頂いています。励ましのお言葉もあります。大変でしょうけれども、次回の原案というか、方針提示に努めていただけたらと思います。そういうところで、皆さん、大体よろしいでしょうか。

【鈴木会長】 では、「その他」に進みます。「その他」でどうぞ。

【松井委員】 我々がやっている二ヶ領せせらぎ館の黄色いナマズのことですけれども。

【梅原委員】 たまずん。

【松井委員】 「たまずん」がありました。何ページでしょうか。

【鈴木委員】 7ページの「たまずん」。

【松井委員】 7ページですね。この「たまずん」ですが、8月いっぱいまで、今月はカワスイにいますのですけれども、来月から多摩市民館に来ます。戻ってきます。多摩市民館に来て、その後、3カ月ぐらいたってから二ヶ領せせらぎ館に戻りますが、そのときに、せせらぎ館で入れる水槽が、今は小さい水槽です。かなり大きくなってきているので、大きい水槽を買わなければいけません。ここで、クラウドファンディングをわれわれは行います。そうすると、また上手に広報したいと思えますから、皆さん、できるだけ関心を持ってください。「たまずん」をよろしく願います。「たまずん」の居場所。

【梅原委員】 見ました。

【松井委員】 見ました？

【松井委員】 そうですか。「たまずん」はすごく人気があるのです。

【松井委員】 こういう、「もし、たまずんが死んでしまったらどうしようか」などと、いろいろ考えるのですが、やはり水槽を良くして、居場所をつくってあげることが非常に大事なので、こういうのに関心を持ってくれる方はかなりいるのではないかと期待していますが、どうでしょうか。皆さん。

【鈴木会長】 7ページの写真で見ると、「たまずん」の水槽がものすごく狭いというか、尾びれが伸び切らないような、小さい水槽に入れられてしまっていますね。かわいそうに。

【松井委員】 狭いのです。それで、今いるのも、1.2メートルぐらいのところに入っているようです。多摩区役所でも1.2メートルぐらいですけれども、われわれは1.5メートル以上のものをセットしたいのです。そういうことで、今、見積もりを取ったり、いろいろ計画を作ったりしていますので、よろしく願います。

【鈴木会長】 ありがとうございます。

【松井委員】 皆さんにも広報してもらいます。

【梅原委員】 カワスイに募金箱を置いたらどうですか。

【松井委員】 募金箱は入れます。

【梅原委員】 カワスイに募金箱。

【松井委員】 いいですね。

【梅原委員】 入れますよ。

【事務局】 1点よろしいですか。

【鈴木会長】 事務局、どうぞ。

【事務局】 今のお話で、多摩区役所に行く話は、まだ公表していません。

【松井委員】 公表していないのですか。分かりました。

【事務局】 また報道発表等はさせていただきますので、それ以降に周知していただく分にはいいのですが、現時点では、ここだけの話ということでとどめておいていただければと思います。

【松井委員】 ありがとうございます。

【事務局】 事務局としても、「たまずん」については、カワスイもそうですが、やはり川崎市の PR に貢献していますので、今後も「たまずん」を生かしながら、この多摩川の魅力を伝えていければと考えています。以上です。

【松井委員】 いいですね。賛成。

【鈴木会長】 ありがとうございます。「その他」で、事務局からは他に何かありますか。

【事務局】 ありません。

【鈴木会長】 それでは、今日は皆さんから、いろいろと改定に向けたプランの在り方について、少しご意見が出ましたが、参考にさせていただいて、次回のこの会議で、プランをより良くするための努力・成果をご披露していただければと思っています。よろしくお願ひします。これから、また台風シーズンというか、怖いですね。来週も、また雨が続くなどという話もありますので、そのときになったら皆さんは大変でしょうけれども、よろしくお願ひします。

それでは、私の進行はこれぐらいにして、事務局にお返しします。皆さん、ご協力をありがとうございました。

《閉会》

【事務局】 会長、大変ありがとうございました。最後に、事務局より連絡事項です。

次回の会議については、来年の2月ごろに開催予定です。また、日程等は調整させていただきますので、よろしくお願ひします。

最後に閉会ですが、本日はお忙しい中、委員の皆さま方にはご出席いただきましてありがとうございます。活発なご議論と、たくさんのご意見を伺うことができました。本年度も、川崎市新多摩川プランに基づき施策を推進していきますので、今後とも委員の皆さまのご協力を頂きますよう、よろしくお願ひします。

以上をもちまして、令和3年度第1回川崎市多摩川プラン推進会議を終了します。本日はありがとうございました。